

実践事例02

ひらがなの文字や単語を
読むためのサポート

小学校

流れ

- 1 学習アプリを活用して、文字を読む力をつける
- 2 「PowerPoint」で作成したフラッシュカードを使って
 - (1) 単語をまとまりとして読む力をつける
 - (2) 都道府県名を読む力をつける
- 3 学習アプリやフラッシュカード(PowerPoint)の体験

1 学習アプリを活用して
文字を読む力をつける

<ひらがなの読みの流れ>

文・文章



単語をまとまりで



単音107音 (直音+36拗音_{ゃ・ゅ・ょ})

直音71音

46文字の清音

25文字の濁音・半濁音

音声言語の発達 ・ 音韻認識

読みの土台：「音声言語の発達」

*音声言語・・・話し言葉

1歳過ぎ・・・「まんま」「わんわん」などの単語

3歳頃・・・「まんま たべる」などの2語文・3語文

5歳頃・・・接続詞などを使って、いろいろな表現

*知っている語彙数も増える

参考文献「読み書きが苦手な子どもへの基礎トレーニングワーク」
竹田契一監修 明治図書

読みの土台：「音韻認識」(4・5歳頃に発達する)



- * 言葉の一音一音を正しく捉える力
- * 言葉の音の構造に注意を向ける力

音韻認識の力があると、音韻操作もできる

- ▶ 混成 な・が・れ・ぼ・し → 「ながれぼし」
- ▶ 抽出 「かぶとむし」の四番目は、「む」
- ▶ 分解 「くじら」 → く・じ・ら
- ▶ 削除 「かめら」の三番目をとったら「かめ」

「くじら」
は
3つの音

「音韻認識」が弱いと？



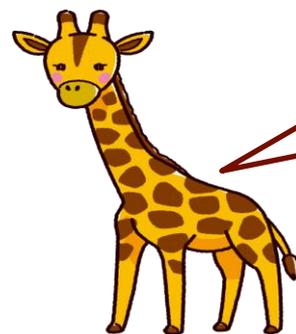
<幼児期>

- ・「とうもろこし」→「とうもころし」のような言い誤り
- ・「だ/ら」「ど/ろ」「ち/き」のような似ている音の聞き誤り・言い誤り

らくら



ちりん



「音韻認識」が弱いと？



<小学校低学年>

特殊音節でつまずきやすい

(音の構造に注意を向けることが苦手なので)

- ・「拗音」：イ段の音が**変化した音** (きんぎよ・ちよきん)
- ・「促音」：音と音の間に**無音**部分 (ねっこ・きって)
- ・「長音」：音を**伸ばして**言う部分 (おかあさん・ぶどう)
- ・「撥音」：「ん」で表される**鼻に抜いた音** (あんぱん)

小学校入学が近づく頃には
ひらがなに興味をもつ子が多い中で...



5歳児
95%
読める

字に興味をもてない子もいる

うまく
読めない
...

みんな、もう
読めるの？

読むの、
いや...



ひらがなの読解力

国立国語研究所1994

	1967年	1994年
46文字		
3歳児		14.0(30.4%)
4歳児	24.4	34.7(75.4%)
5歳児	36.8	43.8(95.2%)
71文字		
3歳児		18.6(26.2%)
4歳児	33.5	49.7(70.0%)
5歳児	53.0	65.9(92.8%)

文字を読む指導で、大切にしたいこと

音韻認識

音声言語の発達
語彙力

文字と音の
対応のルール

子どもの
力を知る

《こんな1年生は、いませんか?》

- ・入学まで、字に興味がなかった
- ・名前だけは書ける
- ・名前に含まれる文字でも、単音だと読めない
- ・字を覚えにくい
- ・鏡文字になる
- ・ひらがなの練習を嫌がる
- ・会話の中で、聞き誤りや言い誤りがある



《学びにくさの想定》

- ・名前に含まれる文字でも、単音で問われると読めないし書けない
- ・会話の中で、聞き誤りや言い誤りがある

→ **一文字に一音の認識や、音韻認識**の弱さ

- ・学習した字を覚えにくい

→ **文字から音を想起する力**の弱さ

- ・書くと、鏡文字になる
- ・ひらがなの反復練習を嫌がる

→ **微細運動**の苦手さ・**眼球運動**の未熟さ・

視空間認知の弱さ

- ・できそうにないと感じると取り組むことを避ける

→ **自己効力感や意欲**の低下

《指導の方向性》

○一音一音に注意を向かせる活動

⇒音韻認識の力を高める

○文字から音・音から文字を想起する活動

⇒文字から音の想起の自動化

○視空間認知や眼球運動のトレーニング

音・なぞり・視写の活動を連動させた活動

⇒視写と読みの連動

○多感覚・即時評価

⇒集中して取り組める時間を伸ばす

○「できた」「わかった」ことを具体的に伝えて意識付ける

⇒自己効力感をもたせ、意欲を支える

《取り組む意欲を支えたい》

読み書きに苦手さを感じ、意欲が下がっている…

取り組むことに抵抗がある…

少しやってみようかな



おもしろそう
できるかも

⇒ 学習アプリを活用してみるのはどうだろうか？

『音韻認識の力を高める』

音韻認識とは、言葉の音に着目し操作できる能力のことで、例えば「くるま」という単語は「く」と「る」と「ま」でできており、「くるま(車)」の「く」と「きく(菊)」の「く」は同じ音であることがわかる力である。その力を高めていく。

⇒いくつかの音でできているかな

⇒単語の最後や最初の音に注意を向けよう

⇒特別な音の構造(消える・伸びる)に注意を
向けて音を数えよう

<いくつかの音かな?>

- ・注意を向けて音を聞く
- ・何度でも聞く
- ・音を視覚化
- ・音を動作化



(「音韻認識を高めるひらがなトレーニング」明治図書730円)

<この音 あるかな?>



- ・語頭音に注意を向ける
- ・注意を向けて、何度でも聞く



(「音韻認識を高めるひらがなトレーニング」明治図書730円)

<最後と最初の音は何かな?>

- ・語尾や語頭の音に注意を向ける
- ・同じ音を探す



(「音韻認識を高めるひらがなトレーニング」明治図書730円)

<特別な音に注意を向けて>

- ・長音に注意を向けて



→アプリやイラストがなくても、言葉を聞き動作化をしながら音を数える活動に移行

(「音韻認識を高めるひらがなトレーニング」明治図書730円)

『文字から音を想起する』

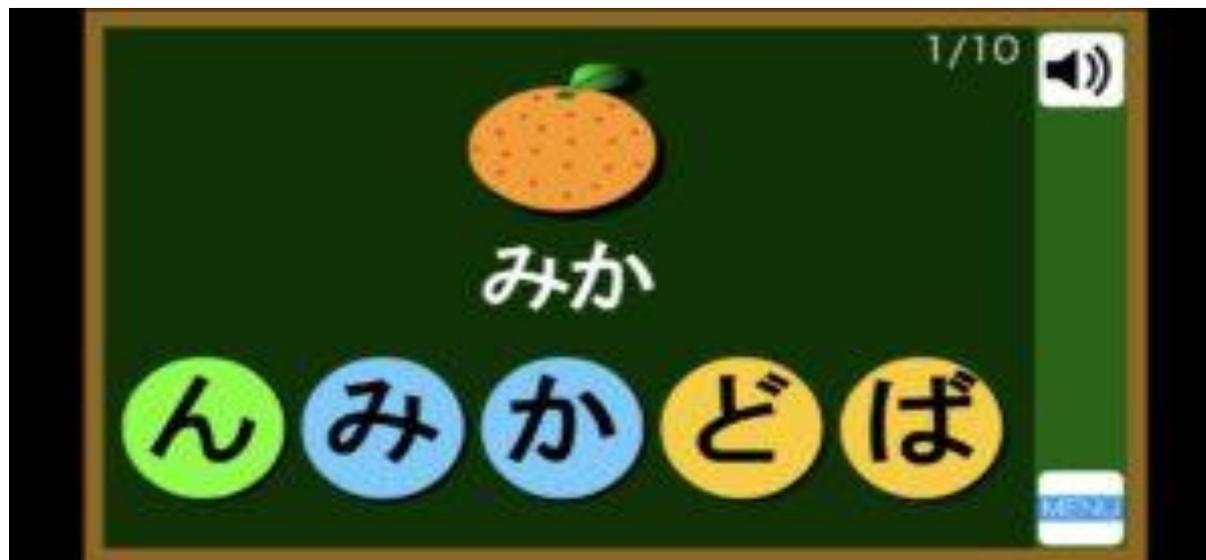
表音文字であるひらがなに意味をつけて想起する手助けをしたり、「音→文字」を選択することからスタートして多様な「選ぶ」場面を組み合わせたりする中で「文字→音」の経験も積ませて、文字から音を想起（読む）できる文字を増やす

- 文字に意味付けして、繰り返し唱えてみよう
- 音を聞いてひらがな文字を選ぼう
- 正解を見て文字を選んで単語を作って読もう
- 文字（単語）を読んで、イラストを選ぼう

<音を聞いて、文字を選択する>

- ・リズムカルな音で興味をそそる
- ・音から文字への対応
- ・色が変わりヒント(取り組みやすさ)

あ



- ・ (「にほんごーひらがな」KENJIHIOKI) 無料

<イラストに合う文字を選択する>

- ・イラストから語彙を想起
- ・文字を想起し選択肢から選ぶ
- ・難易度調整できる



(「ひらがなめっちゃわかるもん!!」無料)

yuuki Uchiyama

<文字を読んでイラストと結びつける>



- ・文字から音へ変換
- ・イラストがヒントになり取り組みやすい
- ・派手な即時評価で達成感



(「ひらがなをおぼえよう!あいうえおにぎり」無料)
Makorino

『視写と読みを連動』

位置や形を捉える力を高めると同時に、ひらがなをよく見て正しく視写する機会を繰り返し作り、正しい表記に繋げていくと同時に、読みの機会をつくり読みと書きを連動させていく。

→位置や形をよく見て、点つなぎや間違い探しをしよう

→音を聞きながら、ひらがなをなぞろう

→位置や形に気を付けて、ひらがなを正しく写そう

<音を聞きながら、ひらがなをなぞる>

- ・音と文字を対応
- ・文字に意味が付く
- ・印象に残る仕掛け



(レインボーミミズ「たのしい!ひらがな」yukinakamura)

半分は無料。46文字全部は370円

清音・濁音の単語が読めるようになった後、 特殊音節が含まれる単語の読みへ

<特殊音節>

1文字に1音節の対応ではない



音韻認識の弱い子にとって
読み書きでつまずきやすい



音に注意を向けさせて
視覚化や動作化をしながら
読みのルールを習得させる

特殊音節	
促音	き <u>っ</u> て
拗音	き <u>ゃ</u> べつ
長音	お <u>か</u> あさん
拗長音	び <u>ょう</u> いん
拗促音	し <u>ょ</u> っ <u>き</u>
撥音	り <u>ん</u> ご

《促音が含まれる単語の読み指導例》

- 促音があることに気付く
- 促音がどこにあるか確かめる
(必要に応じて動作化もしながら)
- 促音に注意を向けて、
促音が含まれる単語を読む・読み慣れる
(反復練習)
- 促音に注意を向けて表記する中で、
読みの力をさらに高める

<促音の位置に注意を向けて>

- ・音を何度でも聞ける
- ・音が消えたことに注意を向ける
- ・正解すると楽しい音楽
- ・ご褒美のイラスト
- ・誤答だと、やり直せる



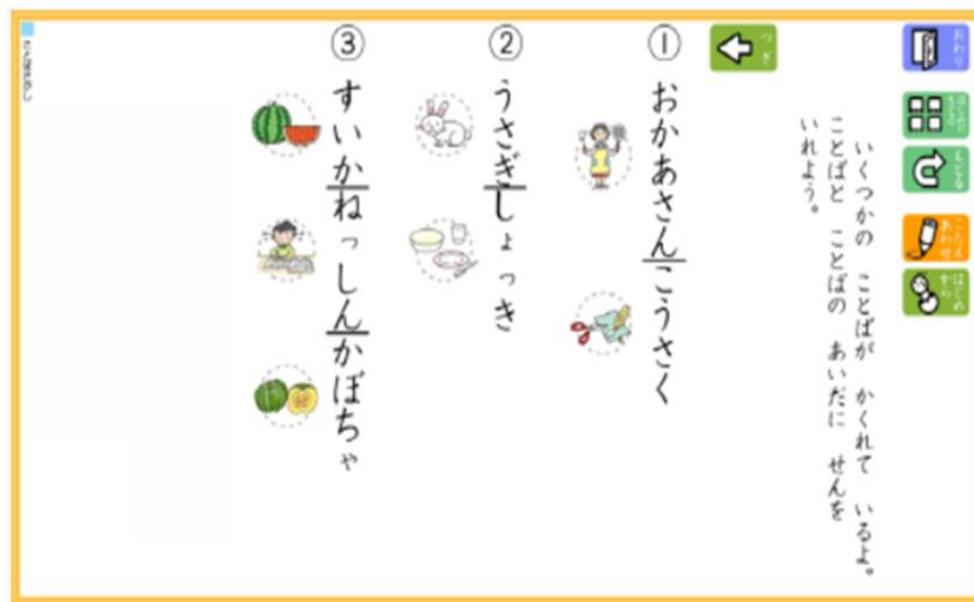
(Gakkenn 「多層指導モデルMIMデジタル版」 オープン価格)

<促音に注意を向けて、単語を読む>



左側にまとめて示されているイラストを文字の横に移動させる楽しさがある

イラストが読みのヒントにもなる



(Gakkenn「多層指導モデルMIMデジタル版」オープン価格)

《拗音が含まれる単語の読み指導例》

○拗音節が読める

*拗音節カードで音に意味付け支援

*拗音三角シートカードで音作り支援

(資料参照)

○拗音に注意を向けて単語を読める

○拗音に注意を向けて音に合う表記を選択したり、
表記する中で、読む力を高める

<拗音に注意を向けて聞く>

- ・何度でも聞き直せる
- ・音に注意を向ける
- ・音と文字の対応

- ・正解すると音楽で賞賛
- ・1問ずつなので、集中



(Gakkenn「多層指導モデルMIMデジタル版」オープン価格)

学習アプリ活用にあたっての課題①

◇iPad対応の学習アプリが多い

⇒一人一台端末で使うのは難しい面がある
web対応のものを探していくことも必要

(web上で取り組めるものもある T式ディスレクシア音読指導アプリforweb(無料)
開発者:鳥取大学)

⇒通級指導の時間で使い、慣れると家庭で取り組んでもらうこともある



◇児童の力に合ったアプリ選び

C:「もう、これはできるようになった!」

C:「もっと、難しいのもできる!!」

⇒児童のプライドややる気を保つように、適切な時期に、
難易度を上げていく



学習アプリ活用にあたっての課題②

◇アプリのペース

速さの調整ができず、児童のペースより遅いときは待つ時間ができ、効率が下がる

◇切り上げるタイミング

「楽しすぎて、もっとしたい」

「他のアプリもしてみたい」



《学習アプリを効果的に活用するための留意点》

○伴走者の存在（共同注視関係）

適切な目標や課題を設定し、アプリを選択する存在

取り組み方を示し、励ます存在

目の付け所や成果や課題を言語化する存在

学びの意味や価値を伝える存在



○主体性をもたせる

受け身な活動から、関心意欲をもって積極的な活動へ

「おもしろそう」から、「できるようにになりたい」へ

学習アプリの良さ①

「興味をひく仕掛け」

*楽しみながら取り組める

意欲を支え、少し根気のいる活動にも
移行できる

かわいい
イラストが
あるなあ

楽しそうな
音楽だな

なぞると
どんどん
動くのか!!

かわいい声
が聞こえてきた



学習アプリの良さ②

「一問ずつ提示される」

*「まずは、これだけ」

⇒取り掛かりやすい

*「今は、これだけ」

⇒集中しやすい



学習アプリの良さ③

「わかりやすい即時評価」

*正解を視覚的・聴覚的に即時評価されることは、
集中を維持するのに有効

できた!!
大きな花丸
ついた

ごほうびの音楽
嬉しい

次も正解するぞ



学習アプリの良さ④

「誤りを受け止めやすい」

*誤りを判断したのは人ではないところは、
受け止めやすさに繋がっているようだ
受け止め、納得して、次にチャレンジ

*一問ずつ提示されるので、
気持ちの切り替えをしやすい



学習アプリの良さ⑤

「音と文字との対応」

*何度でも、納得いくまで、聞き直せる

*文字に対応した音を自然に聞ける

ボタンを押すと
何度でも音を
聞けるから安心



学習アプリの良さ⑥

「聴覚情報＋視覚情報」

聴覚情報の活用が難しく、言葉で説明されてもうまく理解できない児童にとって、見本となる映像を見られるのは、理解を助ける

単語の意味を視覚的に理解でき、語彙力の高まりも期待できる

そういうこと
だったのかあ・・・



学習アプリの良さ⑦

「多様な方法で反復が可能」

*いろいろな方法や 難易度で

反復練習しやすい

2択・3択・5択

イラストあり・なし

音楽やイラストの
変化



<書いて取り組む教材の良さ>

- ・取り組む全体像を見て、見通しをもつ
- ・自分の力で、文字を読む
- ・鉛筆で、文字を紙に書く
- ・静かに、じっくり考える
- ・間違えると、消してやり直せる

*子どもの興味関心に合わせて、途中で、自在に追加・修正できる

<学習アプリと、 今までの教材との組み合わせ>

- 導入をアプリで行い、プリントで反復練習
 - 教材でルールを教えて、アプリで反復練習 など
- 両方の良さを生かして、スモールステップの計画
意欲を支えながら、読む力を付けたい

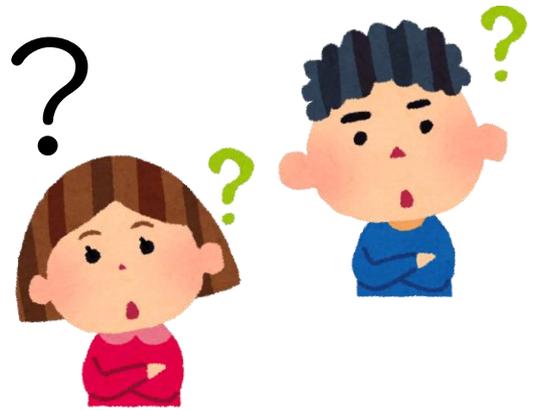
*学習アプリは、この後体験してください

*教材の一部を資料として紹介しています

2 「PowerPoint」で作成した フラッシュカードを使って

- (1) 単語をまとまりとして
読む力をつける

こんな子いませんか？



- 逐次読みになる（初見の文章など）
- 文字や行を読み飛ばす
- 単語や文末を読み間違える

児童の様子

- イラストがあるとわかりやすい
- 言葉をよく知っている

- 目で追う力が弱い
- 課題の量が多い、読む負担が大きいと意欲が下がる
 - ⇒ フラッシュカード (PowerPoint) を活用してみてはどうか？

フラッシュカード(PowerPoint)の 単語を読む

- PowerPointで一画面に一単語のフラッシュカードを作成(指導用タブレット(Windows)を使用)
- 文字を大きく写し、ヒントになるように小さくイラストを添える
- 初めは、担当者が操作して一緒に確認しながら読み、慣れたら児童が操作して読む

身近な単語のフラッシュカード

- 読み間違えても、イラストを見て修正することができる
- 文字に注目しやすい、イラストがヒントとなる、自分のペースで取り組むことができることなどから、読むことの負担が軽減する



教科書に出てくる単語の フラッシュカード

- イメージしにくいと考えられる単語には、イラストを添える
- 漢字には、ルビをつける
- 担当者と一緒に、単語の意味や読み間違いを確認しながら読む



無意味音節のフラッシュカード

- 文字をよく見て読むことができるよう、無意味音節のスライドを作成

- 10回正確に読める、一定のテンポに合わせて読めるの2つの条件がクリアできたら2音→3音→4音とステップアップさせていく



2 「PowerPoint」で作成した
フラッシュカードを使って

(2) 都道府県名を読む力をつける

漢字 一文字で意味をもつ表意文字

○音読みに複数の読み方がある

宮城 (ギ)

長崎 (サキ)

茨城 (キ)

宮崎 (ザキ)

難しさ

○熟語の中では一般的な読み方から
変わるものがある

群馬

神奈川

新潟

三重

漢字の読み学習



○読み方である「音」を想起する
一般的には、読みが書きに先行する

○言葉の意味を知っていると、熟語の読み方を
学習しやすくなる

言葉自体を知らないと、読み方を学習しても、しばらくすると慣れた読み方に戻って読んでしまうことがある

参考・引用文献:「実践編 ワーキングメモリを生かす漢字プリント」川村 暁著 Gakken
「教室の中のワーキングメモリ 弱さのある子に配慮した支援」川村 暁著 明治図書

児童の様子（読み書き場面）

弱さ

- ・定着している言葉の数が少ない
- ・書字の負担が大きい

強さ

- ・視覚優位
- ・経験と結び付けると覚えやすい
- ・位置関係を捉えることができる

都道府県名が読めるようになりたい



イメージをひろげる

- 「日本がわかる ちずのえほん」
～一緒に読みながら、
都道府県の特産物等を知らせる～

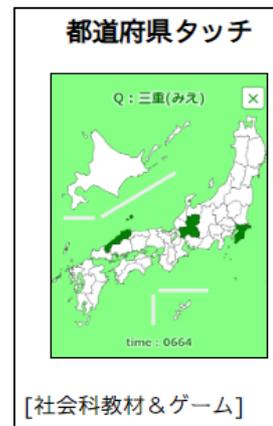


ふゆの いちこ絵
Gakken

- 都道府県名かるた

- エデュアル「都道府県タッチ」

- 「日本地図おつかい旅行すごろく」



都道府県タッチ



日本地図おつかい旅行
すごろく アーテック

「PowerPoint」で フラッシュカード作成

- 1画面に1都道府県名を提示する
- 都道府県名漢字に特産物等のイラストを付ける
- 提示する順番を一定にする
- 漢字のスライドの次に、ルビを付けたスライドを付け、すぐに正誤が確認できるようにする



フラッシュカードの活用

○1画面に1都道府県名を提示する

～イラスト付きから、

漢字のみのスライドへ～

○想起できないときは、語頭の音をヒントに出す

(ヒント付き再生)

1 北海道	2 青森県	3 岩手県
4 宮城県	5 秋田県	6 山形県
7 福島県	8 茨城県	9 栃木県

自分で操作しながらの 読み練習

イラストなしの都道府県名カードでの反復練習

自分でやりたい!



瞬時に読めるカードが増えてきた 一方で、読み誤ることも...

- 熟語の中の知っている漢字の読みから、覚えて
いる都道府県名を想起する
福島 ➡ 「とくしま」

- 音の似た読みを想起する
滋賀 ➡ 「さが」
東京都 ➡ 「きょうと」

似た用語を区別して覚えに
くい (音韻的類似性効果)

フラッシュカードを使用して

操作が簡単

必要な情報に注意
を向けやすい

自分のペース
で練習できる



読むことへの負担
が軽減する

たくさん練習
できる

楽しんで、練習
に取り組める

フラッシュカードの効果的な活用

○子どもの実態に合わせて、内容や難易度を工夫する

○子どもと対話しながら取り組む

- ・ポイントを伝え、一緒に確認したり、励ましたりする

- ・子どもの気持ちを聞いたり、自分に合う方法を選ぶよう促したりする

自分に合った方法を受け入れ、

自分に合った方法を見つけていけるように

